

会 議 録

会議名	第4回音更町総合計画推進委員会
開催日時	平成29年2月3日（金） 午後4時から午後5時45分
開催場所	音更町役場庁舎4階401・402会議室
委員出席者	津久井委員長、林委員長職務代理、岡庭委員、河田委員、小林委員、高橋委員、土田委員、畠委員、森下委員、吉川委員
町側出席者	《事務局》 傳法企画財政部長、渡辺企画課長、西岡企画調整係長、高田企画調整係主任、松蔦企画調整係主事
傍聴者	北海道十勝総合振興局地域創生部地域政策課主査（地域創生） 山田氏
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議件 <ul style="list-style-type: none"> （1）重点施策推進管理評価調書、総合戦略推進管理評価調書の検証について 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> （1）次回のスケジュールについて
会議資料	※第1回目で配布した資料を使用 ・第5期総合計画推進管理評価調書 ・音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書 ・（資料1）音更町総合計画推進委員会について ・（資料2）第5期総合計画推進管理評価調書について ・（資料3）音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書について ・（冊子）第5期音更町総合計画、音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略、まちづくり町民アンケート結果報告書
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	■重点施策【情報の共有を進め参加の輪が広がるまちづくり】 委員：町の広報紙はインターネットで見ることできるのか。 事務局：町のホームページで閲覧可能である。 委員：男女共同参画のアンケートは、町民全員に実施したものか。 事務局：無作為の抽出である。

委員：男女平等参画の推進について、「一般企業から推進」というのは難しいと思う。経営者がそういう考えにならないと難しい。音更町内の企業が事業主行動計画を作成し、男女共同参画のホームページで閲覧できるようになると、数として分かりやすいと思う。

事務局：平成27年度に町内全ての事業所に対し周知、啓発的なパンフレットを送付した。

委員：まちづくり懇談会を計画的に実施し、町民の意見を吸い上げる取組とあるが、地域の問題も含め具体的に把握し、それが解決につながった事例はどの程度あるか。

事務局：懇談会で多い要望は、道路や歩道の修繕関係や信号機、標識などの交通規制に関するもの。また、生活環境に係る防犯灯関係である。町で対応可能な案件は対応するが、信号機などは警察の管轄であるため、それら要望は、内容を確認し警察へつないでいる。ただ、警察も対応に時間がかかるため、苦情も受けているのが現状である。

委員：パブリックコメント件数の“3つ”が少ないとの説明であったが、その理由は何か。

事務局：町が計画などを策定する時にパブリックコメントを実施するが、平成26、27年度については、新規の計画策定件数が少なかったのが理由である。

委員：パブリックコメントを実施しても、意見が出てこないケースがどこの市町村でも多いと聞く。やはり自由記述で書くパブリックコメントがハードルを高くしていると思うが、町民の各種計画や町政に対する意見を吸い上げる方法として庁内検討をしているのか。

事務局：自分たちの生活に直結する計画については多くの意見も提出がある。意見を吸い上げる方法論の議論までは至っていない。

委員：意見する場として、まちづくり懇談会や町内会を通す、又は、町職員に直接伝える方法などが一般的だが、他に日頃町民の意見を聞く場はあるか。また、意見は何件ほど寄せられているのか。寄せられた意見は集約などして公表されているのか。

事務局：広報紙の町政声のポストというハガキや町ホームページのメールボックスからメールで意見を出すことが可能である。また、各コミセンに意見を入れる箱を設置している。全体で年間100件ほどの意見が寄せられている。個人情報等の観点から個別に対応している。

委員：計画策定時のワークショップという部分で、これまで行った事例で代表的なものは何か。また、計画完成後にワークショップを開催して運営状況を検証したことはあるか。

事務局：鈴蘭の青葉公園改修時に地元の町内会や子どもたち、音更高校の生徒を含めたワークショップを実施した。その以前では、音更中学校や火葬場を建てる時も開催している。完成後の検証は行っていないが、今後の参考とする。

委員：広報の発行部数は世帯数分か。

事務局：全世帯数の8割程度を作成して各町内会に加入している部数を配布している。その他コンビニや町の施設に設置している。

委員：町内会の加入促進のための呼びかけなどは行っているのか。

事務局：転入届の手続き時に町内会の加入を勧めている。町内会に関する問合せは広報広聴課である。

■総合戦略【移住や定住の促進】【結婚につながる出会いの場の創出】
【安全・安心なまちづくりの推進】【周辺市町村との連携の推進】

委員：地域おこし協力隊などの制度を使い地域に人を呼び込む動きがあるが、音更町で取組が進んでいない理由は何か。

事務局：地域おこし協力隊は一定の条件があり、本町は都市地域に分類されるため東京や政令指定都市からでない地域おこし協力隊として受け入れることができないという条件がある。制度の条件に乗れば、受け入れた人に係る人件費が国から補填されるが、条件地域以外の人では補填がない。また、先進地の状況を確認すると適切な人材に巡り会うのが難しいとのことで進んでいない。平成29年度から整理しながら取り組む予定である。

委員：大谷短大の介護福祉専攻へ進学される学生へのサポートとはどのようなものか。また、要件としては、十勝管内の介護関係施設に就職するということか。

事務局：授業料や研修料、入学金の一部を町と短大が負担し、2年間にかかる費用の約20パーセントを短大側に交付する。短大は十勝の拠点のひとつとしての考えがあり、十勝に就職していただくというのが事業の考え方である。今年度、補助した学生全員が十勝管内の施設で内定を受け、その内何人かは音更町内の介護福祉施設に内定を受けたと聞く。

委員：これから子供を産む若い夫婦には、産婦人科は大きなニーズだと思うが、産婦人科の誘致などは行わないのか。

事務局：個人経営の産婦人科は減少傾向にあり、誘致となると個人的にできる人がいないのが事実である。

委員：移住定住の冊子を作成しているが、本州などの関係施設には設置しているのか。

事務局：昨年11月と今年の1月に東京で開催された移住フェアに町職員が参加し、そこで配付した。また、十勝管内の施設では、帯広空港や競馬場など主要な施設に設置している。

委員：温泉地域の話だが、ここは札内が近いから結婚すると札内に出てしまう。木野地区は距離的に遠いから温泉地区の町営住宅を整備することで定住する温泉職員が増える。子育て世代の働く場を整備し、保育所などの環境を充実させる必要があると考えるが。

事務局：温泉地区の町営住宅整備は、計画の中で進んでいないのが現状だが、以前から札内への流出や子育て環境の整備に関する要望は確認している。

委員：民間のホテルと提携して行っている「ちょっと暮らし支援制度」について、体験移住者に対しアンケートなどで移住に関する情報収集などは実施しているのか。

事務局：支援制度の活用条件として「本町での移住体験を考えた理由」や「移住に対し不安など」の簡易アンケートを実施している。

委員：空き家になっている農業住宅などは売地として出していないのか。

事務局：以前は、そういう問い合わせもあったが現在は無い。

委員：田舎暮らしにあこがれて移住してくると思うが、価値観の違いからトラブルを抱えるケースは多い。情報提供をしっかりとすべきで、コーディネートなどを町で用意するののも一つの方法。

委員：先輩移住者の話を発信することで「こんな暮らし方ができるなら音更に住んでみたい」と思う人もいる。音更での移住パターンを数多く見せる目的で、現状のリサーチも進めてほしい。

■全体を通しての意見

委員：男女共同参画について、子育て環境の整備も大事だが、保育士などの専門職に対する支援についても考えてみてはどうか。専門職の支援をすることで女性に優しい町として捉えられ、若い夫婦が音更に住んでくれるものとする。子育てをしながら専門職を続けていける環境を整備することで子育て世代へのアプローチにも繋がるように思う。

※事務局より、次回会議を2月16日 午後4時から開催することを説明